

## エ 介護給付費推計ソフト（ワークシート）の配布について

1. 第2期介護保険事業計画におけるサービス量の見込み等を円滑に行うことを支援するため、市町村（保険者）に介護給付費推計ソフト（ワークシート）を配布することを予定している。

(1) ワークシートとは、市町村の各データを入力することにより、介護サービス量の見込み、第1号被保険者の保険料の見込み等を簡便に推計するための計算式を組み込んだソフトウェアである。

(2) 市町村の介護保険事業に関する政策形成を支援するためのツールとして作成したものであり、主として中小規模の市町村への支援を想定したものであるが、大規模市町村においても使用は可能である。

(3) さらに、シミュレーション結果をグラフ等によって確認することも可能である。

既に介護給付分析ソフト（平成13年6月に市町村へ配布済み）を活用して給付分析を行っている市町村においては、同様のグラフ等の帳票がワークシートから出力されるため、給付分析と将来推計とを関連づけて視覚的に検討することができる。

ワークシートによるシミュレーション結果は、その都度、報告書として出力されるため、これを電子ファイル又は印刷した帳票として保存することができる。この報告書は、例えば、市町村介護保険事業計画作成委員会への参考資料として利用することも想定できる。

(4) ワークシートは、次の3種類のソフトウェアで構成される。

- 介護保険事業計画におけるサービス量の見込み等の算定手順（ワークシート）
- 第1号被保険者の保険料の推計のワークシート
- 市町村人口推計ソフトウェア

なお、ソフトウェアの操作の流れ、推計の具体的考え方、入力・出力のイメージ（推計報告書）は、別紙1のとおりである。

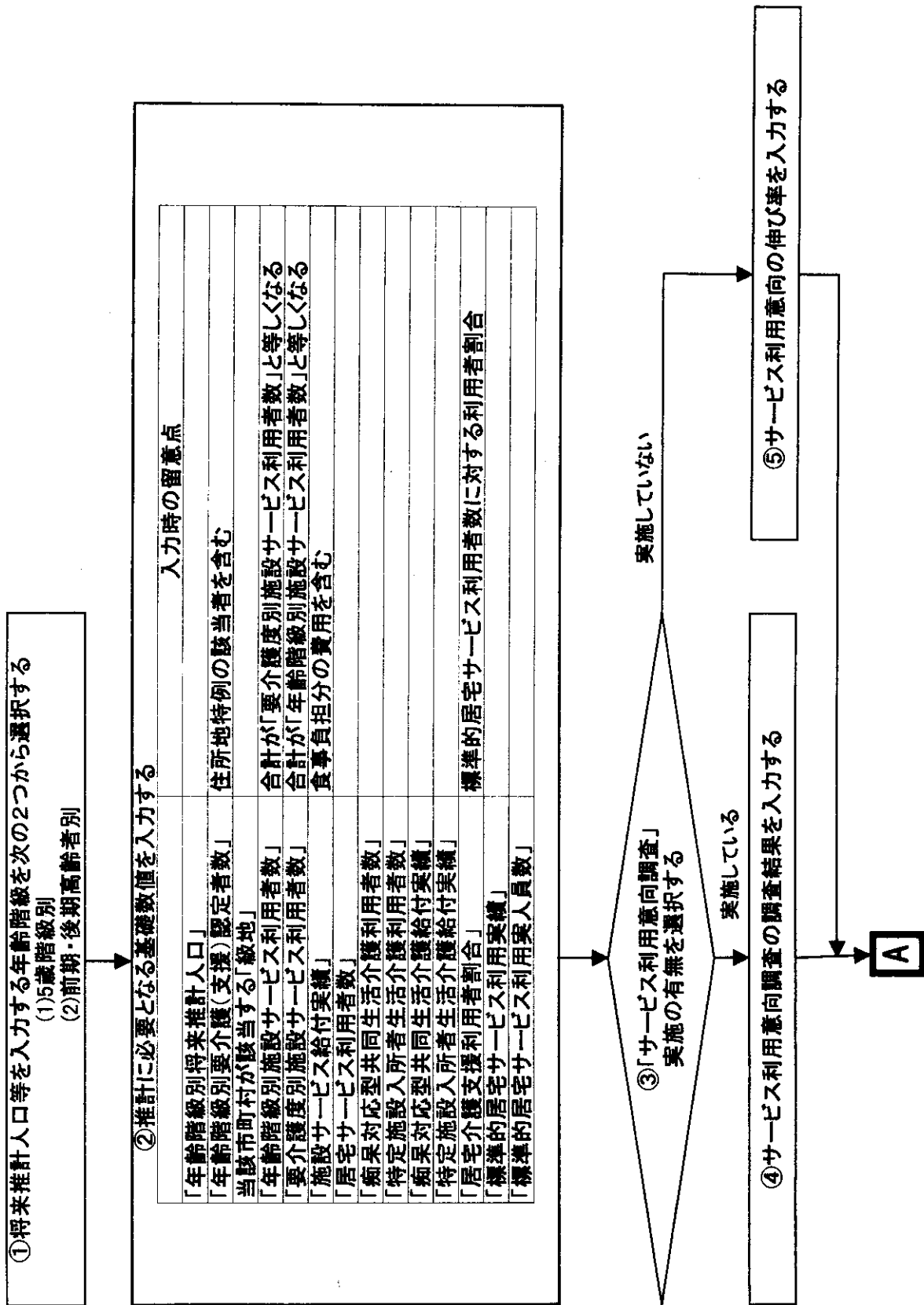
2. 配布は、都道府県を通じて、今月中に行うことを予定している。

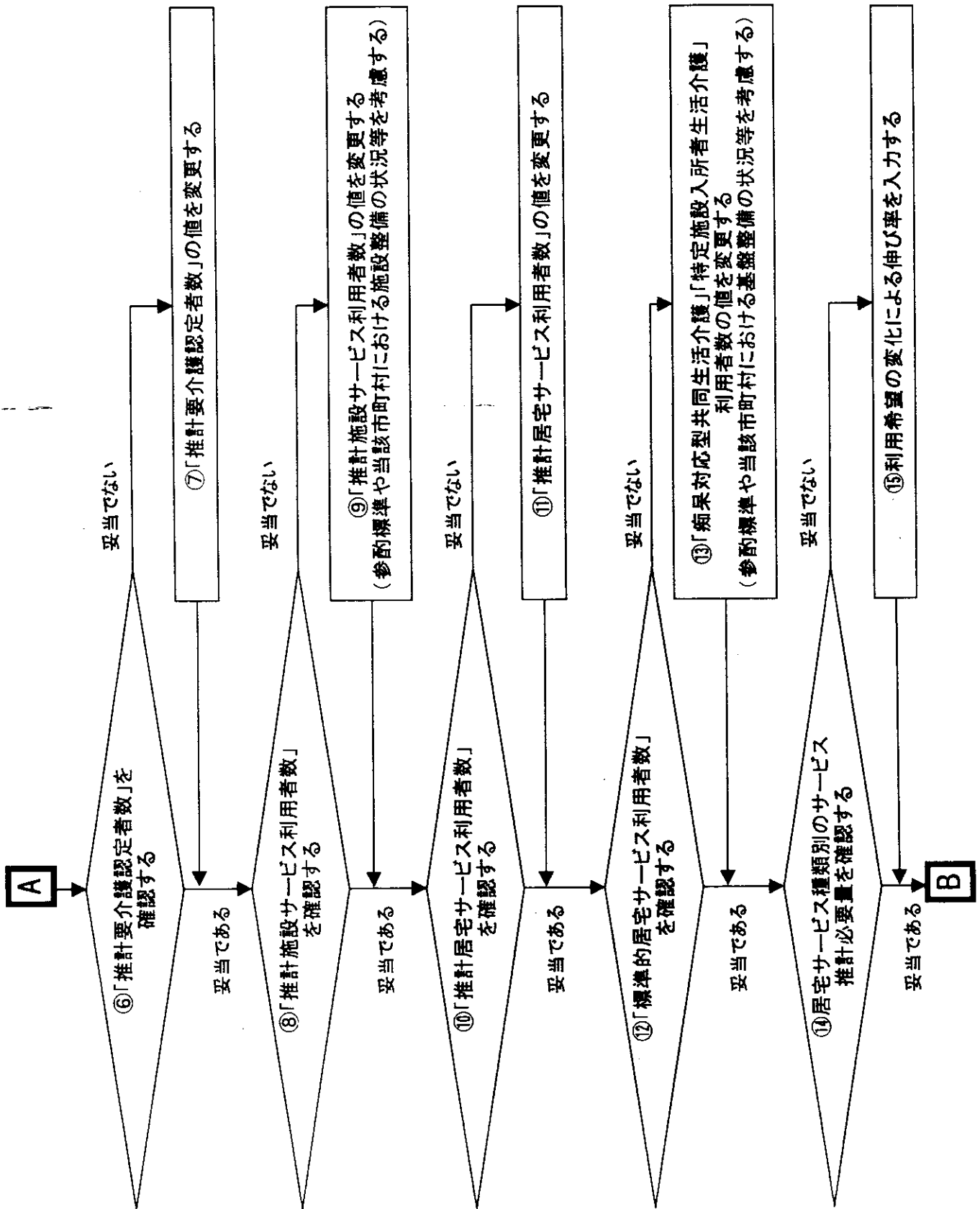
3. ワークシートを市町村が活用するかどうかは任意であるが、都道府県には、市町村から要望があった場合、適宜、技術的助言等による支援をお願いしたい。

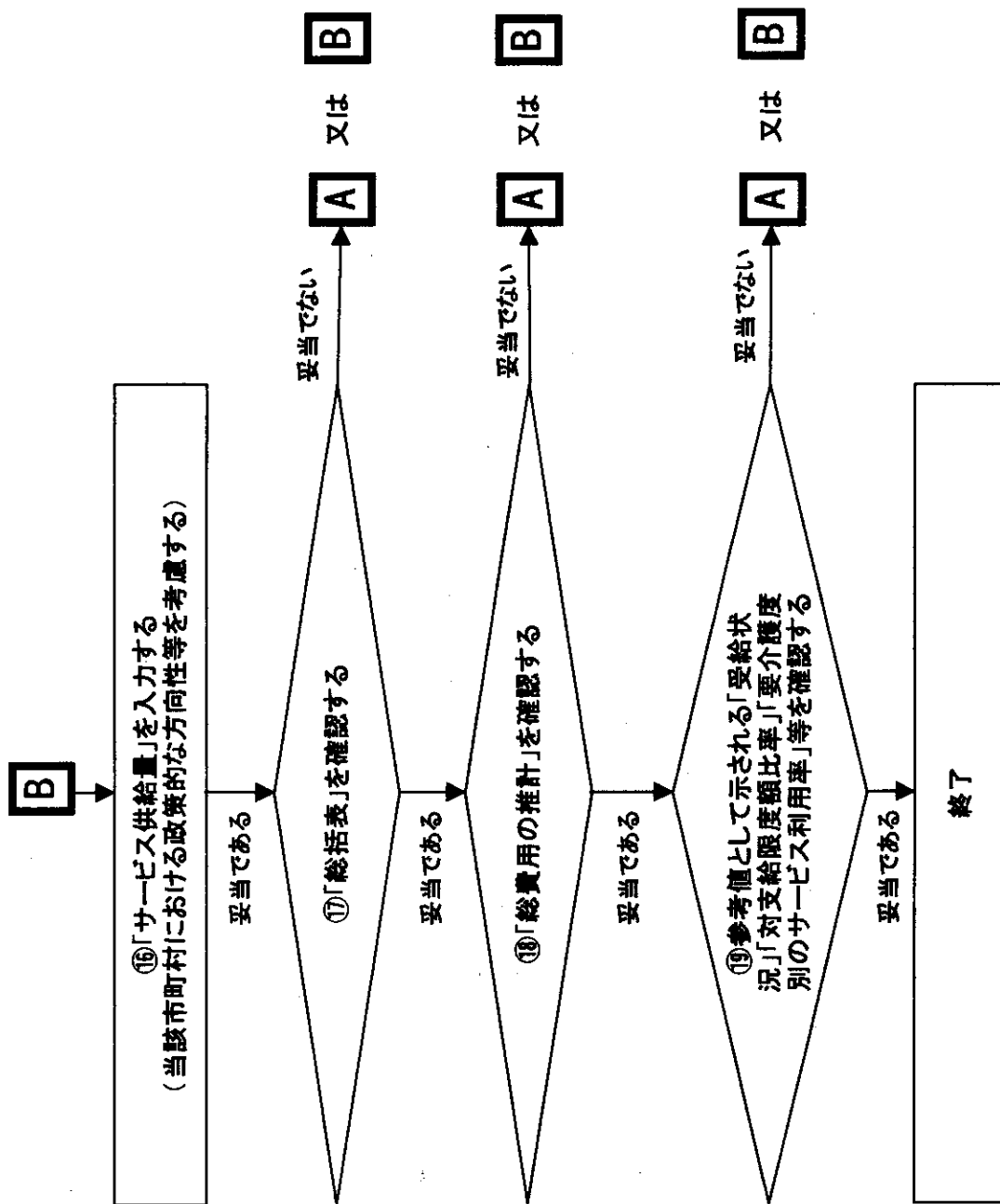
## 別紙 1

- ① 介護保険事業計画におけるサービス量の見込み等の算定手順（ワークシート）操作の流れ
- ②－A 介護保険事業計画におけるサービス量の見込み等の算定手順（ワークシート）の考え方
  - －B 介護保険事業シミュレーション推計報告書のイメージ
- ③－A 第1号被保険者の保険料の推計のワークシートの考え方
  - －B 第1号被保険者の保険料推計報告書のイメージ
- ④－A 市町村（保険者）人口推計ソフトウェアの考え方
  - －B 人口推計シート推計報告書のイメージ

# ① 介護保険事業計画におけるサービス量の見込み等の算定手順(ワークシート)操作の流れ







## ②ーA 介護保険事業計画におけるサービス量の見込み等の算定手順（ワークシート）の考え方

- は、市町村が入力する数値を表し、 は、計算により算出される数値を表す。
- 平成13年10月時点とある数値については、市町村の状況によって、平成13年10月以外の時点であっても構わない。

### I サービス利用者数の推計

1. 要介護認定者数  
A. 要介護認定者割合(平成13年10月時点)

$$\boxed{\text{要介護認定者割合(要介護度別)(A)}} = \boxed{\text{平成13年10月時点の年齢階級別要介護(支援)認定者数(要介護度別)}} \div \boxed{\text{平成13年の年齢階級別推計人口}}$$

※1 年齢階級別要介護(支援)認定者数には、住所地特例に該当する者を含む。

(参考) 前期・後期高齢者別に推計を行う場合

$$\boxed{\text{40～64歳の要介護(要支援)認定者割合(要介護度別)(A1)}} = \boxed{\text{平成13年10月時点の40～64歳の要介護(要支援)認定者数(要介護度別)}} \div \boxed{\text{平成13年の推計40～64歳人口}}$$

$$\boxed{\text{前期高齢者の要介護(要支援)認定者割合(要介護度別)(A2)}} = \boxed{\text{平成13年10月時点の前期高齢者の要介護(要支援)認定者数(要介護度別)}} \div \boxed{\text{平成13年の推計前期高齢者人口}}$$

$$\boxed{\text{後期高齢者の要介護(要支援)認定者割合(要介護度別)(A3)}} = \boxed{\text{平成13年10月時点の後期高齢者の要介護(要支援)認定者数(要介護度別)}} \div \boxed{\text{平成13年の推計後期高齢者人口}}$$

**B.推計要介護認定者数**

$$\boxed{\text{平成15年～19年の推計要介護(支援)認定者数(要介護度別)(B)}} = \boxed{\text{年齢階級別推計要介護(支援)認定者数(要介護度別)の合計}}$$

$$\boxed{\text{年齢階級別推計要介護(支援)認定者数(要介護度別)}} = \boxed{\text{要介護認定者割合(要介護度別)(A)}} \times \boxed{\text{平成15年～19年の年齢階級別推計人口}}$$

(参考)平成15年の推計要介護認定者数(前期・後期高齢者別に推計を行う場合)

$$\boxed{\text{推計要介護認定者数(要介護度別)(B)}} = \boxed{\text{40～64歳の要介護(要支援)認定者割合(要介護度別)(A1)}} \times \boxed{\text{平成15年の推計40～64歳人口}}$$

$$+ \boxed{\text{前期高齢者の要介護(要支援)認定者割合(要介護度別)(A2)}} \times \boxed{\text{平成15年の推計前期高齢者人口}}$$

$$+ \boxed{\text{後期高齢者の要介護(要支援)認定者割合(要介護度別)(A3)}} \times \boxed{\text{平成15年の推計後期高齢者人口}}$$

※平成16～19年についても同様の算式で算出される。

2. 施設サービス利用者数の推計

A. 施設サービス利用者出現率(平成13年10月時点)

$$\frac{\text{施設サービス利用者出現率(年齢階級別)(C)}}{\text{平成13年10月時点の年齢階級別施設サービス利用者数(要支援～要介護5の合計)}} = \text{平成13年の年齢階級別推計人口}$$

(参考)前期・後期高齢者別に推計を行う場合

$$\frac{\text{施設サービス利用者出現率(40～64歳)(C1)}}{\text{平成13年10月時点の40～64歳の施設サービス利用者数(要支援～要介護5の合計)}} = \text{平成13年の推計40～64歳人口}$$

$$\frac{\text{施設サービス利用者出現率(前期高齢者)(C2)}}{\text{平成13年10月時点の前期高齢者の施設サービス利用者数(要支援～要介護5の合計)}} = \text{平成13年の推計前期高齢者人口}$$

$$\frac{\text{施設サービス利用者出現率(後期高齢者)(C3)}}{\text{平成13年10月時点の後期高齢者の施設サービス利用者数(要支援～要介護5の合計)}} = \text{平成13年の推計後期高齢者人口}$$



B.推計施設サービス利用者数

【利用者数合計】

$$\begin{aligned}
 & \text{平成15年～19年の利用者数合計(D)} = \text{平成15年～19年の利用者数合計(年齢階級別)の合計} \\
 & \text{平成15年～19年の利用者数合計(年齢階級別)} = \text{施設サービス利用者出現率(年齢階級別)(C)} \times \text{平成15年～19年の年齢階級別推計人口}
 \end{aligned}$$

(参考)前期・後期高齢者別に推計を行う場合

$$\begin{aligned}
 & \text{平成15年～19年の利用者数合計(D)} = \text{施設サービス利用者出現率(40～64歳)(C1)} \times \text{平成15年～19年の推計40～64歳人口} \\
 & + \text{施設サービス利用者出現率(前期高齢者)(C2)} \times \text{平成15年～19年の推計前期高齢者人口} \\
 & + \text{施設サービス利用者出現率(後期高齢者)(C3)} \times \text{平成15年～19年の推計後期高齢者人口}
 \end{aligned}$$

【施設種類別利用者数】

$$\begin{aligned}
 & \text{平成15年～19年の介護老人福祉施設利用者数(D1)} = \text{平成15年～19年の利用者数合計(D)} \times \text{平成13年の介護老人福祉施設利用者数} \\
 & \div \text{平成13年の施設利用者数合計} \\
 & \text{平成15年～19年の介護老人保健施設利用者数(D2)} = \text{平成15年～19年の利用者数合計(D)} \times \text{平成13年の介護老人保健施設利用者数} \\
 & \div \text{平成13年の施設利用者数合計} \\
 & \text{平成15年～19年の介護療養型医療施設利用者数(D3)} = \text{平成15年～19年の利用者数合計(D)} \times \text{平成13年の介護療養型医療施設利用者数} \\
 & \div \text{平成13年の施設利用者数合計}
 \end{aligned}$$

【要介護度別利用者数】

$$\frac{\text{平成15年～19年の要介護度別利用者数(D4)}}{\text{平成15年～19年の施設種類別利用者数(D1～D3)}} \times \text{平成13年の施設種類別要介護度別利用者数} = \text{平成13年の施設種類別利用者数}$$

## II. 居宅サービス量の推計

### 1. 居宅サービス利用者数の推計

#### A. 居宅サービス対象者数

$$\begin{aligned} & \boxed{\text{平成15年～19年の居宅サービス対象者数(E)}} = \boxed{\text{平成15年～19年の推計要介護(支援)認定者数(要介護度別)(B)}} \\ & - \boxed{\text{平成15年～19年の推計介護老人福祉施設利用者数(D1)}} \\ & - \boxed{\text{平成15年～19年の推計介護老人保健施設利用者数(D2)}} \\ & - \boxed{\text{平成15年～19年の推計介護療養型医療施設利用者数(D3)}} \end{aligned}$$

#### B. 居宅サービス利用者数

##### B-1. 居宅サービス利用者割合(平成13年10月時点)

$$\begin{aligned} & \boxed{\text{居宅サービス利用者割合(F)}} = \boxed{\text{平成13年10月時点の居宅サービス利用者数}} \\ & \div \left( \boxed{\text{平成13年10月時点の要介護認定者数}} - \boxed{\text{平成13年10月時点の施設サービス利用者数}} \right) \end{aligned}$$

##### B-2. 推計居宅サービス利用者数

$$\boxed{\text{平成15年～19年の推計居宅サービス利用者数(G)}} = \boxed{\text{居宅サービス利用者割合(F)}} \times \boxed{\text{平成15年～19年の居宅サービス対象者数(E)}}$$

C.標準的居宅サービス利用者

$$\frac{\text{平成15年～19年の標準的居宅サービス利用者数(H)}}{\text{平成15年～19年の標準的居宅サービス利用者数(G)}} = \frac{\text{平成15年～19年の痴呆対応型共同生活介護利用者数(I)}}{\text{平成15年～19年の痴呆対応型共同生活介護利用者数(J)}}$$

【要介護度別利用者数】

$$\frac{\text{要介護度別標準的居宅サービス利用者数}}{\text{平成15年～19年の標準的居宅サービス利用者数(H)}} \times \text{平成13年10月時点の要介護度別標準的居宅サービス利用者数} = \text{平成13年10月時点の標準的居宅サービス利用者数}$$

$$\frac{\text{平成15年～19年の痴呆対応型共同生活介護利用者数(I)}}{\text{平成15年～19年の推計高齢者人口}} = \frac{\text{平成13年10月時点の痴呆対応型共同生活介護利用者数}}{\text{平成13年の推計高齢者人口}} \times \text{平成15年～19年の推計高齢者人口}$$

【要介護度別利用者数】

$$\frac{\text{要介護度別痴呆対応型共同生活介護利用者数}}{\text{平成15年～19年の痴呆対応型共同生活介護利用者数(I)}} \times \text{平成13年10月時点の要介護度別痴呆対応型共同生活介護利用者数} = \text{平成13年10月時点の痴呆対応型共同生活介護利用者数}$$

$$\frac{\text{平成15年～19年の特定施設入所者生活介護利用者数(J)}}{\text{平成13年10月時点の特定施設入所者生活介護利用者数}} = \frac{\text{平成13年10月時点の推計高齢者人口}}{\text{平成15年～19年の推計高齢者人口}} \times \text{平成13年10月時点の推計高齢者人口}$$

【要介護度別利用者数】

$$\frac{\text{要介護度別特定施設入所者生活介護利用者数}}{\text{平成15年～19年の特定施設入所者生活介護利用者数(I)}} \times \text{平成13年10月時点の要介護度別特定施設入所者生活介護利用者数} = \text{平成13年10月時点の特定施設入所者生活介護利用者数}$$

## 2. 居宅サービスのサービス量の推計

【訪問介護・訪問入浴介護・訪問看護・訪問リハビリテーション・通所介護・通所リハビリテーション・居宅療養管理指導・短期入所サービス・福祉用具貸与】

$$\boxed{\text{推計サービス必要量(要介護度別)(K)}} = \boxed{\text{利用希望の伸び率}} \times \left( \boxed{\text{平成13年の要介護度別標準的居宅サービス利用実績(回・日等)}} \right)$$

$$\div \boxed{\text{平成13年10月時点の要介護度別標準的居宅サービス利用者数}}$$

$$\times \boxed{\text{平成15年～19年の要介護度別標準的居宅サービス利用者数}}$$

(サービス利用意向調査を実施している場合)

$$\boxed{\text{利用希望の伸び率(要介護度別)}} = \boxed{\text{目標サービス量(回・日等)(要介護度別)}} \div \boxed{\text{利用サービス量(回・日等)(要介護度別)}}$$

(サービス利用意向調査を実施していない場合)

$$\boxed{\text{利用希望の伸び率}} = \boxed{\text{平成13年の標準的居宅サービス利用実績に対する平成15～19年の利用希望の伸び率をサービス別に見込む}}$$

### 【居宅介護支援】

$$\boxed{\text{推計サービス必要量(L)}} = \boxed{\text{平成15年～19年の要介護度別標準的居宅サービス利用者数}} \times \boxed{\text{平成13年10月時点の居宅介護支援利用者割合}}$$

※ 居宅介護支援利用者割合は、居宅介護支援利用者数÷標準的居宅サービス利用者数で算出される割合である。

### Ⅲ. 総費用の推計

$$\begin{aligned}
 & \boxed{\text{居宅サービス種類別総費用(M)}} = \boxed{\text{居宅サービス種類別総費用(要支援)}} + \boxed{\text{居宅サービス種類別総費用(要介護1)}} + \boxed{\text{居宅サービス種類別総費用(要介護2)}} \\
 & + \boxed{\text{居宅サービス種類別総費用(要介護3)}} + \boxed{\text{居宅サービス種類別総費用(要介護4)}} + \boxed{\text{居宅サービス種類別総費用(要介護5)}} \\
 & \boxed{\text{居宅サービス種類別総費用(要介護度別)(N)}} = \boxed{\text{平成13年の標準的居宅サービス利用実績(要介護度別)(単位数)}} \\
 & \div \boxed{\text{平成13年の標準的居宅サービス利用実績(要介護度別)(回、日等)}} \\
 & \times \boxed{\text{平成15年～19年のサービスの供給量(要介護度別)}} \times \text{1単位の単価} \\
 & \boxed{\text{痴呆対応型共同生活介護総費用(O)}} = \boxed{\text{痴呆対応型共同生活介護総費用(要介護1)}} + \boxed{\text{痴呆対応型共同生活介護総費用(要介護2)}} \\
 & + \boxed{\text{痴呆対応型共同生活介護総費用(要介護3)}} + \boxed{\text{痴呆対応型共同生活介護総費用(要介護4)}} \\
 & + \boxed{\text{痴呆対応型共同生活介護総費用(要介護5)}} \\
 & \boxed{\text{痴呆対応型共同生活介護総費用(要介護度別)(P)}} = \boxed{\text{平成13年10月時点の痴呆対応型共同生活介護給付実績(要介護度別)(単位数)}} \\
 & \div \boxed{\text{平成13年10月時点の痴呆対応型共同生活介護利用人数(要介護度別)}} \\
 & \times \boxed{\text{平成15年～19年の痴呆対応型共同生活介護利用者数(要介護度別)(I)}} \times 12 \times \text{1単位の単価}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & \boxed{\text{特定施設入所者生活介護総費用(Q)}} = \boxed{\text{特定施設入所者生活介護総費用(要支援)}} + \boxed{\text{特定施設入所者生活介護総費用(要介護1)}} \\
 & + \boxed{\text{特定施設入所者生活介護総費用(要介護2)}} + \boxed{\text{特定施設入所者生活介護総費用(要介護3)}} \\
 & + \boxed{\text{特定施設入所者生活介護総費用(要介護4)}} + \boxed{\text{特定施設入所者生活介護総費用(要介護5)}}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & \boxed{\text{特定施設入所者生活介護総費用(要介護度別)(R)}} = \boxed{\text{平成13年10月時点の特定施設入所者生活介護給付実績(要介護度別)(単位数)}} \\
 & \div \boxed{\text{平成13年10月時点の特定施設入所者生活介護利用人数(要介護度別)}} \\
 & \times \boxed{\text{平成15年～19年の特定施設入所者生活介護利用者数(要介護度別)(J)}} \times 12 \times 1 \text{単位の単価}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & \boxed{\text{施設サービス種類別総費用(S)}} = \boxed{\text{施設サービス種類別総費用(要支援)}} + \boxed{\text{施設サービス種類別総費用(要介護1)}} + \boxed{\text{施設サービス種類別総費用(要介護2)}} \\
 & + \boxed{\text{施設サービス種類別総費用(要介護3)}} + \boxed{\text{施設サービス種類別総費用(要介護4)}} + \boxed{\text{施設サービス種類別総費用(要介護5)}}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & \boxed{\text{施設サービス種類別総費用(要介護度別)(T)}} = \boxed{\text{平成13年10月時点の施設種類別給付実績(要介護度別)(単位数)}} \\
 & \div \boxed{\text{平成13年10月時点の施設サービス利用者数(要介護度別)}} \\
 & \times \boxed{\text{平成15年～19年の施設種類別利用者数(要介護度別)(D1～D3)}} \times 12 \times 1 \text{単位の単価}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & \boxed{\text{居宅介護支援総費用(U)}} = ( \boxed{\text{平成15年～19年のサービス供給量(要支援)}} \times 650 \text{単位} + \boxed{\text{平成15年～19年のサービス供給量(要介護1・2)}} \times 720 \text{単位} \\
 & + \boxed{\text{平成15年～19年のサービス供給量(要介護3・4・5)}} \times 840 \text{単位} ) \times 12 \times 1 \text{単位の単価}
 \end{aligned}$$

(参考)

0. 受給状況

平成15年～19年の受給(利用)実人数 = 平成15年～19年の施設サービス利用者数合計(D) + 平成15年～19年の標準的居宅サービス利用者数(H)

1. 利用状況(在宅・施設)

(1) 利用者の要介護度の状況

1-1 在宅利用者・施設入所者の内訳

平成15年～19年の在宅サービス利用者数(V) = 平成15年～19年の標準的居宅サービス利用者数(H)

平成15年～19年の施設サービス利用者数 = 平成15年～19年の施設サービス利用者数合計(D)

1-2 施設別入所者の要介護度の状況

平成15年～19年の施設サービス種類別利用者数 = 平成15年～19年の要介護度別利用者数(D4)

(2) 利用サービス別の費用額

1-3 在宅サービス種類別費用額

【訪問介護・訪問入浴介護・訪問看護・訪問リハビリテーション・通所介護・通所リハビリテーション・居宅療養管理指導・短期入所サービス・福祉用具貸与】

平成15年～19年の在宅サービス種類別総費用 = 在宅サービス種類別総費用(M)

【痴呆対応型共同生活介護】

平成15年～19年の痴呆対応型共同生活介護総費用 = 痴呆対応型共同生活介護総費用(O)

【特定施設入所者生活介護】

平成15年～19年の特定施設入所者生活介護総費用 = 特定施設入所者生活介護総費用(Q)



1-4 施設サービス種類別費用額

$$\text{平成15年～19年の施設サービス種類別総費用} = \text{施設サービス種類別総費用(S)}$$

(3)利用サービス別の人数・費用額

1-5 在宅サービス種類別利用人数

【訪問介護・訪問入浴介護・訪問看護・訪問リハビリテーション・通所介護・通所リハビリテーション・居宅療養管理指導・短期入所サービス・福祉用具貸与】

$$\begin{aligned} \text{平成15年～19年の居宅サービス種類別利用人数} &= \text{平成15年～19年の居宅サービス種類別利用人数(要支援)} + \text{平成15年～19年の居宅サービス種類別利用人数(要介護1)} \\ &+ \text{平成15年～19年の居宅サービス種類別利用人数(要介護2)} + \text{平成15年～19年の居宅サービス種類別利用人数(要介護3)} \\ &+ \text{平成15年～19年の居宅サービス種類別利用人数(要介護4)} + \text{平成15年～19年の居宅サービス種類別利用人数(要介護5)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{平成15年～19年の居宅サービス種類別利用人数(要介護度別)} &= \text{平成15年～19年のサービス供給量(要介護度別)} \\ &\div (\text{平成13年の要介護度別標準的居宅サービス利用実績(回、日等)}) \\ &\div (\text{平成13年10月時点の要介護度別標準的居宅サービス利用実人員数}) \end{aligned}$$

【痴呆対応型共同生活介護】

$$\text{平成15年～19年の痴呆対応型共同生活介護利用者数} = \text{平成15年～19年の痴呆対応型共同生活介護利用者数(I)}$$

【特定施設入所者生活介護】

$$\text{平成15年～19年の特定施設入所者生活介護利用者数} = \text{平成15年～19年の特定施設入所者生活介護利用者数(J)}$$

1-6 施設サービス種類別利用人数

平成15年～19年の介護老人福祉施設利用者数	=	平成15年～19年の介護老人福祉施設利用者数(D1)
平成15年～19年の介護老人保健施設利用者数	=	平成15年～19年の介護老人保健施設利用者数(D2)
平成15年～19年の介護療養型医療施設利用者数	=	平成15年～19年の介護療養型医療施設利用者数(D3)

1-7 在宅分・要介護度別費用額

平成15年～19年の要介護度別費用額(W)	=	居宅サービス種類別総費用(要介護度別)(N)の合計	+	痴呆対応型共同生活介護総費用(要介護度別)(P)
			+	特定施設入所者生活介護総費用(要介護度別)(R)

1-8 施設分・要介護度別費用額

平成15年～19年の要介護度別費用額	=	施設サービス種類別総費用(要介護度別)(T)の合計
--------------------	---	---------------------------

2. 対支給限度額比率(在宅)  
 (1) 要介護度別の対支給限度額比率  
 2-1 要介護度別の対支給限度額比率

$$\frac{\text{平成15年～19年の平均費用額(X)}}{\text{平成15年～19年の要介護度別費用額(W)}} \div \text{平成15年～19年の在宅サービス利用者数(V)}$$

$$\frac{\text{平成15年～19年の対支給限度額比率}}{\text{平成15年～19年の平均費用額(X)}} \div \text{区分支給限度基準額(単位) \times 10円}$$

3. サービス利用率とケアプランの比較(在宅)  
 (1) サービス別の利用率  
 3-1 要介護度別のサービス利用率

$$\frac{\text{平成15年～19年の在宅サービス別利用率}}{\text{平成15年～19年の居宅サービス種類別利用人数(要介護度別)}} \div \text{平成15年～19年の標準的居宅サービス利用者数(H)}$$